

研究者情報

氏名	津田和加子
役職	教授
所属	生活科学科
最終学歴	実践女子大学大学院家政学研究科（前期）
学位	修士(家政学)
専門分野	調理学
所属学会	日本栄養改善学会 日本栄養・食料学会 日本家政学会 日本食育学会 日本調理科学会 日本学校保健学会 日本健康心理学会
主要担当科目	調理学、基礎栄養学、応用栄養学、応用栄養学実習、調理科学実験
研究課題	食教育、特産物、嗜好、郷土料理

研究業績／教育実績(主な著書・論文)

区分	著書・論文名等	発行所・掲載誌(書)・著書等	発行等年月
著書			
論文	CE QUE LE SEIGEUR A FAIT POUR MOI	Cahiers de spiritualite igunatienne 102	平成 14 年 4 月
	小学生の調理技術と果物の嗜好との関係	桜の聖母短期大学紀要 30号	平成 19 年 3 月
	桜の聖母短期大学における給食管理学内実習の実践報告	桜の聖母短期大学人間学研究所 Vol.13	平成 19 年 3 月
	祈りの要素を取り入れた給食管理学内実習の反省会	桜の聖母短期大学人間学研究所所報 2008 Vol.14	平成 21 年 3 月

	「米の摂取・調理状況と米に対する意識調査」報告書	日本調理科学会東北・北海道支部	平成 21 年 12 月
	学生と共に取り組んだ南相馬市食育メニューの開発	桜の聖母短期大学人間学研究所所報 2009 Vol.15	平成 22 年 3 月
	「科目間連携による地域活動を通じた人材育成の実践」 —地元特産品の食品加工から販売まで「街なかマルシェ」参加協力—	桜の聖母短期大学人間学研究所所報 2010 Vol.16	平成 23 年 3 月
	地域活動を通じた人材育成の実践—福島食材を使用した弁当の共同開発—	桜の聖母短期大学人間学研究所所報 2011 Vol.17	平成 24 年 3 月
	地域活動を通じた人材育成の実践(2)—餃子弁当の開発—	桜の聖母短期大学人間学研究所所報 2012 Vol.18	平成 25 年 3 月
	災害時に備えて世帯に設置する「ダイエット・トリアージカード」の提案—大学生を対象とした災害時食生態調査からの検討—	杏林大学研究報告 教養部門 31、9-20、2014	平成 26 年 2 月
	地域活動を通じた人材育成の実践(3) 「納豆の商品開発」	桜の聖母短期大学人間学研究所所報 2013 Vol.19	平成 26 年 3 月
	飯舘村「佐須の大福」に見る名物菓子の発生	桜の聖母短期大学紀要 第 39 号	平成 27 年 3 月

	福島市の旧家「堀切家」の食と精神—堀切仁（じん）を中心に	桜の聖母短期大学人間学研究所所報 2014Vol.20	平成27年3月
	献立作成能力育成を主眼においたカリキュラム・ツリーの検討	桜の聖母短期大学紀要 第40号	平成28年3月
	福島市「堀切家」の婚礼献立の変遷—江戸後期から明治期にかけて—	桜の聖母短期大学紀要 第40号	平成28年3月
	居住制限区域「飯舘村」の食文化とその継承のあり方	人間学研究所所報 Vol.21	平成28年3月
	福島市飯坂町の旧家堀切家の明治期における婚礼献立	桜の聖母短期大学紀要 第41号	平成29年3月
	「手造り味噌講座」の経験価値に関する一考察	人間学研究所所報 Vol.22	平成29年3月
教科書	新版 調理学実習	アイ・ケイコーポレーション	平成18年11月
	新 調理学実習 一般調理から大量調理その基礎と展開	同文書院	平成21年4月
	新 調理学実習 第二版 —基本調理から給食への展開—	同文書院	平成28年4月
各種 GP 申請 (採択)			

主な社会貢献活動

社会貢献活動	活動年月日
福島市学校給食センター運営委員会委員	平成12年4月～現在に至る

福島市観光物産協会 認証マーク認定委員	平成 23 年 4 月～現在に至る
福島市観光物産協会 発酵研究会アドバイザー	平成 23 年 4 月～現在に至る
日本調理科学会東北・北海道支部福島県委員	平成 26 年 4 月～現在に至る
日本家政学東北北海道支部福島県幹事	平成 28 年 4 月～現在に至る

#### 特別研究

テーマ／概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射能汚染による避難地域における郷土料理の聞き書き調査</li> <li>・福島市の郷土料理探究－江戸期～大正時代の婚礼膳による研究</li> <li>・福島県の郷土料理研究</li> </ul>
特別研究内容	<p>・東京電力福島第一原子力発電所の事故により、放射能汚染がもたらされた。避難を余儀なくされた地域の郷土料理を記録に残していく必要性を感じたことから、聞き書き調査を行っている。現在は、飯館村から避難している人々を対象に調査を実施している。</p> <p>・福島市の郷土料理があまり明確ではない。そのため、江戸期～大正時代の婚礼膳を比較検討する。福島市らしい郷土料理を明らかにする。</p> <p>・日本調理科学会特別委員会による書籍出版の準備にかかわる。主に、福島県中通り北部および相双地区北部を担当している。</p>